



児童家庭支援センター

ファミリーステーションいなみえん通信

発行：社会福祉法人 伊奈美園

発行日：平成30年1月吉日【第20号】

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

旧年中は「ファミリーステーションいなみえん」の活動に対し、常に変わらぬご支援とご協力を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

職員一同、今後も児童家庭支援センターとしての役割を果たすことができるよう励みたいと考えております。



ファミリーステーションいなみえん 職員一同

新年研修会を終えて

所長兼臨床心理士

あさだ のぶふみ
浅田 伸史

私ども児童家庭支援センターファミリーステーションいなみえんを含む社会福祉法人伊奈美園の新年研修会を平成30年1月20日に行った。本研修会は、児童養護施設、認定こども園、学童クラブと合同の研修であり、子どもと関わる関係施設が同じテーマで学びの機会を持つ重要な機会である。

今回は、あいせい紀年病院臨床心理士の中西和紀先生をお招きし、「発達障害的怒りについて」と題して講演とグループワークを行った。今回、中西先生をお招きしたのは、子どもたちと関わる中で職員がそれぞれに「この子は発達障害を抱えているのではないか」とか、「なんでこんな行動をとるのかわからない」といった悩みを持ちながら日々の活動を行っている中で、「発達障害」という概念についてもう一度とらえ直す機会を持ちたいと考えたからであった。というのも、発達障害が一般的に語られるようになって久しいものの、「難しいもの」といった感覚や、発達障害と理解したその先にどのように関わっていったらよいかという見通しが立てにくい/立てられないと感じている職員がまだまだ少なくないように感じたためである。

当日は、中西先生の温和な語り口から、グループワークの中で職員の日ごろの悩みや思いが自然と漏れ、次第にディスカッションも熱を帯びてきたようであった。先生からは「これほど熱意ある職員はなかなか見られない。素晴らしい情熱を持った方々です」とお褒めの言葉をいただいたが、それだけ普段から関心を持ち、また、悩んでいたテーマだった証である。この熱意や気持ちだけではなかなかうまくいかない苦労について、職員の気持ちに寄り添いながら、先生自身の豊富な経験に基づいて、理解の筋道と、もう一つとても大切なこととして「そう簡単にわかることが出来ないこと」を教えていただくことが出来たと思う。

次ページへ続く→

講演内容の詳細は紙幅の関係で紹介出来ないが、教科書的な発達障害についての知識を持つ事よりも、発達障害という視点を持ってそれぞれの個性を持った一人一人の存在と向き合う大切さを参加した職員全員が感じることが出来たのではないだろうか。

研修終了後の職員から、「ぜひ、また先生の話をお聴きたい」との声も多く聴かれた。これは特に先生のお人柄によるところが大きい。発達障害を何か自分たちと違うと感じていたものが、少々物の見方や感じ方が違うかもしれないが、ちゃんと理解し関わりあえる感覚を感じる事が出来たからではないかと考える。

子どもと関わっていく上で、これからも発達障害(または自閉スペクトラム)概念は避けて通ることが出来ない。特定の職員が「発達障害研修」を受けて専門的な知識を持ったからよいのではなく、すべての職員が発達障害を持った子どもと関わる事が必要であり、共通の認識を持って関わりを持つベースを、この年頭に作ることが出来たことは非常に重要なことである。

最後に改めて、講師の中西和紀先生に感謝の意を表したい。



社会資源の交流を生かして

親子のつどい なかよしひろば担当

なかむら みつこ
中村 満子

近年増加している核家族化、地域や近所同士のかかわりの希薄化により、子育ての孤立化が見られる現状です。親子のつどい「なかよしひろば」でも母親同士の話し相手を求め利用したり、コーディネーターや心理士さんへの相談を目的に足を運ぶ親子もいます。

相談者は自分の考えや気持ちと、もう一つ別の支えとなる「何か」を求め相談されるのでしょうか。先日も「5歳男児ですが、爪を噛む事や指を嘗める癖があって、注意するとその時だけ止めるが、また繰り返しているのどうしたら良いか？」という相談がありました。それに対して心理士さんは、「理由はその子によって違うので何を意味するのか？寄り添って気持ちを考えてあげる事が大切でしょう。又、口に指を持って行く行動の安全全部をとってしまうのではなく、爪かみや指を嘗めることをしていない時はどのような時なのか観察し、長い期間で考えながら本人にとっての良い対処法を考える事が大切でしょう」と答えました。ほんの小さな内容に対しても、相談者の気持ちに添って納得いくまで丁寧に対応して下さる心理士さんの態度に満足や安心を感じて相談者は「又、話し合いの機会があれば参加したい」と言う思いをもっていました。

私自身、子どもの気持ちの読み取りや子どもの行動を理解しようと努力していますが、心理士さんの別の見方できめ細やかな寄り添いや対応を見たり聞いたりする事が出来、このような社会資源を生かした交流をすることで、子どもや保護者、保育者自身の日々の安心が感じられます。



告知！ 子育て講演会を開催します！



月に一度、本センターで行なわれている「親の会」主催の講演会が決定しました。
講師には、金沢星稜大学人間科学部子ども学科教授の高賢一先生をお招きしています。
皆様の参加をお待ちしています。

不登校やひきこもりの子どもに向き合いたい、寄り添ってあげたい。
なのに、子どもを見てると不安になったりイライラしちゃう。
お互いの気持ちを尊重していくために大事なことを、一緒に考えてみませんか？

子育て講演会 「親子の効果的なコミュニケーションについて」

講 師 金沢星稜大学人間科学部こども学科 教授
学校心理士スーパーバイザー、ガイダンスカウンセラー
日本学校教育相談学会石川県支部理事長 ^{たか}高 ^{けんいち}賢一 先生

開催日時 平成30年3月17日（土） 14時～16時（受付13時半～）

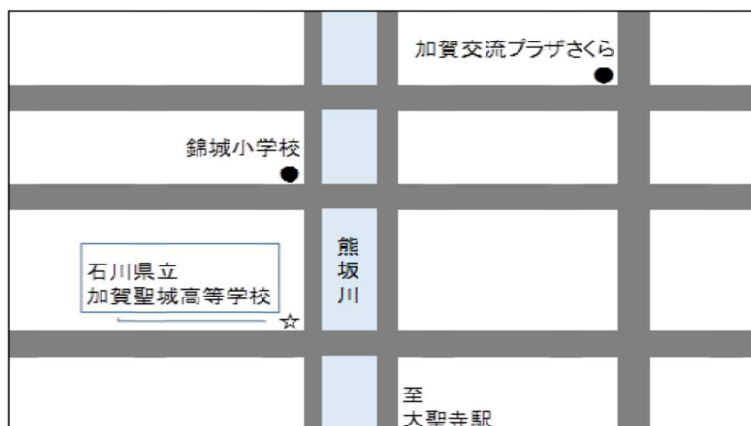
会 場 石川県立加賀聖城高等学校 ホール ※駐車場有

対 象 者 不登校、ひきこもりの子どもを抱える保護者、または関係者
子どもに携わる方、今回のテーマに関心を持った方

問い合わせ先 ファミリーステーションいなみえん 担当 白田まで

申し込み方法 お電話（0761-75-8889）又はメール（center@inamien.jp）にてご連絡
ください。申し込みなしの当日参加も大歓迎です。

申し込み用
メールアドレス



素直な気持ち

副理事長 表 敬喜 おもて たかよし

あけましておめでとうございます。今年の伊奈美園の年賀状は児童家庭支援センターの職員にデザインして頂きました。昨年度より当園の年賀状は園の職員に原案を描いてもらっていますが、今年の年賀状の原案は昨年度よりも多くの案が出され、どれも力作ぞろいでした。今考えると3パターンくらい作っても良かったのではないかと思います。その中で今年はセンター職員の考えたデザインを選ばせて頂きました。一番素直な気持ちが表れていたのが選考の要因だったように思います。素直な気持ちは人を動かすのだなあと感じました。私も負けずに素直な気持ちを忘れず今年一年頑張っていこうと思います。今年もよろしくお願いします。

今後の予定

2月20日（火）子ども支援連絡会（月定例）
2月23日（金）親の会（月定例）
2月26日（月）山代地区子どもを育てる会（月定例）
3月12日（月）施設心理士会（月定例）
3月17日（土）子育て講演会
2月8日・22日、3月8・22日（木）
山代出張相談

相談担当

曜日	一般相談担当	心理担当（要予約）	
	上出・森井	浅田	白田
月	9:00-17:00		9:00-17:00
火	9:00-17:00		13:00-21:00
水	9:00-17:00		13:00-21:00
木	9:00-17:00		13:00-21:00
金	9:00-17:00		9:00-17:00
土	9:00-14:30	10:00-17:00	9:00-14:30
日			

平成29年度相談件数統計

	4/1~12/31（件）
電話相談	114
来所相談	257
訪問相談	443
心理療法等	157
メール・手紙・その他	0
合計	971
児童相談所からの 受託による指導	190

【山代出張相談】

<場所>

山代ファミリーサポートセンター

<日時>毎月第2・第4(木) 14:00~16:00

【相談ダイヤル】

月曜~土曜/9:00~17:00

0761-75-8889

子どもと家庭の悩み 話してみませんか？

児童家庭支援センター ファミリーステーションいなみえん

〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉井6番地

TEL 0761-75-8889

FAX 0761-74-1461

E-mail center@inamien.jp

HP <http://www.inamien.jp>